

国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館 特別展の御案内

江戸中期から昭和初期まで、藍染の木綿は庶民の生活の中で広く愛用されてきました。職人の半纏（はんてん）も、農民の仕事着も、また風呂敷から夜具地まで、生活のあらゆる面で藍染の布が使われていたのです。江戸時代には、奢侈禁止令により贅沢を禁じられていた庶民にとって、藍染の衣類は許される唯一の贅沢であったともいえます。人々は筒描（つつがき）や型紙で文様を染め、また緋（かすり）糸で様々な絵柄を織り上げました。そのどれもが、今日では考えられないほどの手間と労力によって作られています。

このたび当館では所蔵資料の中から、屋号を染め抜いた半纏や、緋の野良着、刺子を施したドンザなど、様々な藍の仕事着を展示いたします。この企画を通じ、藍染の技術や文様ばかりではなく、仕事着の中にも「美」を追い求めた日本人の心の豊かさをご紹介できれば幸いに存じます。

展覧会名： 「藍の仕事着」 Japanese Indigo-dyed Work Clothes

会 期： 2016年9月6日（火）－2016年11月11日（金）

展示資料：

半纏（はんてん）・万祝（まいわい）	14点	
火消装束	8点	
ドンザ・ツツレ（6）ハギトージン（2）	8点	
仕事着（絞り・型染・緋・刺子）	12点	
こぎん	4点	
袖無し（7）前掛け（7）	14点	総数 60点

公開講座：

演 題	「藍の仕事着、その用と美」		
講 師	福井貞子先生 （染織家・日本工芸会正会員・鳥取県無形文化財保持者）		
日 時	2016年10月8日（土）14:00－15:30		
場 所	当館エントランス・ホール	聴講無料・要予約	

開館時間：

火曜～金曜	10:00－17:00		
土曜	10:00－16:30	入館料：	無 料

休 館 日： 日曜、月曜、祝日

交 通： JR 中央線三鷹駅および武蔵境駅南口より小田急バス「ICU 行」にて終点下車または武蔵境駅南口よりタクシーで10分

問い合わせ： 国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館
〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2
TEL:0422-33-3340 / FAX:0422-33-3485（担当：原 礼子）